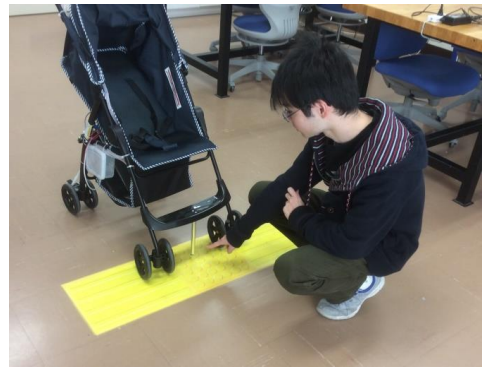


● 2月17日 東京新聞社よりベビーカーの取材がありました



学会よりの表彰状



高木がセンサ類の説明



記者さんもノリノリ



ここで点字ブロックを認識するのあ！！

● 2月22日 下野新聞にハイテクベビーカーが掲載されました

下 野 新 聞 平成 29 年 2 月 22 日 (水)

緊急停止機能付きベビーカーと左から高木さん、田山さん、安波さん

緊急停止ベビーカー 発明コンテスト最高賞

宇都宮・帝京大理工学部の3人 研究室、2年連続の受賞

【宇都宮】帝京大理工学部(豊郷台)丁目、情報電子工学科の蓮田裕一教授の研究室は、日本産業技術教育学会主催の「発明・工夫作品コンテスト」に出品した緊急停止機能付きベビーカーで発明工夫部門最高賞の学会長賞を受賞した。昨年の安全装置付きアイロンに続き2年連続の同賞受賞。今回発明したベビーカー「そこから先に行かせません」は、タイヤ近くに設置したカラーセンサーで点字ブロックを感知すると自動でブレーキがかかる仕組み。駅ホームからの転落事故や車道への飛び出しを防ごうとした取り組みが評価された。(飯田ちはる)

同学会は教員養成系大学の学生を対象に毎年コンテストを開催。11回目の今回は全体で50件、発明工夫部門に9件の応募があり、選考は書類審査だった。受賞メンバーは4年高木さん(21)、3年安波舞さん(21)、同田智洋さん(21)。リーダーを務める高木さんは昨年の同コンテストメンバーで、他の2人は今回が初挑戦だった。

作品は、利用者がハンドルから手を離れた状態で点字ブロックを感知すると、ブレーキがかかり「いったん停止しましょう」などと音声でも危険を知らせる。利用者が坂道でハンドルから手を離してしまった際にも、点字ブロックがあれば停止できる。

また、ベビーカーのハンドルに周囲の明るさを感知する照度センサーを設置。一部のベビーカーにはハン

ドルを強く握っていないと前進できない機能が付いているが、利用者の負担軽減のため賢く握るだけでも前進するようにした。

3人は応募した後も改良を続け、点字ブロックを画像で感知するカメラを取り付けた。感知する精度は格段に上がったという。高木さんは「2度も受賞できるとは思ってなかった。完成まで苦労したのでとてもうれしい」と笑顔を見せた。